ボーリング柱状図

調　　査　　名　大野海岸早時地区海岸　海岸保全事業に伴う業務委託

事 業 ・ 工 事 名

ボーリングNo.	5	1	3	2	3	2	6	3	0	0	0

シートNo.

ボーリング名	Bor.No.16	調査位置	広島県廿日市市大野早時	北緯	34° 18′ 02.9389″	
発注機関	広島県西部建設事務所廿日市支所	調査期間	平成29年12月12日～平成29年12月13日	東経	132° 17′ 33.0198″	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	CDL -2.30m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機	東邦D-1B58	ハンマー落下用具	半自動型
総掘進長	10.00m								エンジン	NS-110	ポンプ	東邦BG-3B

標尺 m	標高 m	層厚 m	深度 m	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	粒度試験による土質区分	孔内水位／測定月日
1	-2.90	0.60	0.60		礫混りシルト質砂	暗灰	非常に緩い		シルト分を含んだ中～粗粒砂。φ5～20mmの亜角礫や角礫と貝殻片（牡蠣）が不規則に混じる。		
2	-4.70	1.80	2.40		シルト質砂	暗灰	非常に緩い		細～粗粒砂。含水量多い。小礫点在。 厚さ10cm程度のシルトを互層状に挟む。 深度1.50m付近まで貝殻片が多く混じる。		
3									細～粗粒砂。 粒径は不揃い。		
4					シルト混り砂	淡青灰	緩い		全体にシルト分を少量含み，貝殻片（牡蠣）が点在する。		
5	-8.00	3.30	5.70						φ3～5mmの亜角礫が多く混じる。		
6									中～粗粒砂。 φ4～20mmの亜角礫や角礫が不規則に混じる。		
7					礫混り砂	淡灰	中くらい		礫片の基質は花崗岩で，カリ長石や石英の礫が多い。		
8	-10.30	2.30	8.00								
9					風化花崗岩	淡灰褐			軟岩1。 風化が進行している。 粗粒のまさ状又はφ3～8mmの礫片状。部分的に塊状の部分を残すが，指先で強く押えると土砂状に崩れる。		
10	-12.30	2.00	10.00								
11											
12											
13											
14											
15											

標準貫入試験

深度 m	10cm毎の打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量	N値
0.55	ハンマー自沈			0/40	
1.15	ハンマー自沈			0/50	
1.65	0/15	1	1/6	2/31	
2.15					
2.46	1	2/14	1/6	4/30	
3.15					
3.45	2/8	3/14	3	8/32	
4.15					
4.47	3	3	3	9/30	
5.15					
5.45	4	4	5	13/30	
6.15					
6.45	4/9	5/11	5/11	14/31	
7.15					
7.46	22	28		50/20	
8.15					
8.35	21	27	2/1	50/21	
9.15					
9.36	38	12/3		50/13	
10.10					
10.23					

原位置試験

深度 m	試験名及び結果

試料採取

深度 m	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
0.15	P-1	㊀		
0.55				
1.15	P-2	㊀	物理	
1.65				
2.15	P-3	㊀	物理	
2.46				
3.15	P-4	㊀	物理	
3.45				
4.15	P-5	㊀		
4.47				
5.15	P-6	㊀	物理	
5.45				
6.15	P-7	㊀	物理	
6.45				12/12
7.15	P-8	㊀		
7.46				
8.15	P-9	㊀		
8.35				
9.15	P-10	㊀	物理	
9.36				12/13
10.10	P-11	㊀		
10.23				